

大田市立病院新改革プランの点検・評価報告書  
(平成30年度 実施状況)

令和元年10月

大田市立病院運営評価委員会

## 目 次

1. 大田市立病院新改革プラン点検・評価報告	…1
2. 大田市立病院新改革プラン個別評価事項	…2
3. 大田市立病院運営における平成30年度の取組状況及び結果	…4
4. 大田市立病院新改革プランに基づく数値計画、目標の達成状況	…11
5. 大田市立病院新改革プラン運営評価委員会委員名簿	…14
(参考)大田市立病院概要	…14

# 1. 大田市立病院新改革プラン点検・評価報告

良質な医療の提供と健全な経営の確立のためには、院内組織による検討だけでなく、外部組織による客観的な評価・提言が必要である。

よって、大田市立病院新改革プランでは、プランの実施状況の点検・評価について、外部有識者からなる運営評価委員会を設置し、平成30年度から4か年にかけて毎年行うこととしている。

今回、プランの平成30年度進捗状況に対する点検・評価を行ったことからその結果を報告する。

団体名	大田市
プランの名称	大田市立病院新改革プラン
策定日	平成29年3月29日
計画期間	平成29年度～令和2年度

## (1) 点検・評価方法

大田市立病院運営評価委員会による点検・評価

- ・委員…外部有識者9人
- ・委員会開催日…令和元年8月22日
- ・方法…委員9人による項目別点検・評価を実施

### 【項目】

- 1) 収入確保対策、2) 経費削減・抑制対策、3) 経営安定化対策、4) その他の対策

### 【評価区分】

- A…目標が達成されている
- B…取り組みはしているが、現状未達成である
- C…目標が未達成である

## (2) 点検・評価結果

(単位:人)

項目	評価区分		
	A	B	C
1) 収入確保対策	5	4	0
2) 経費削減・抑制対策	5	4	0
3) 経営安定化対策	4	5	0
4) その他の対策	7	2	0

※表中の数字は評価した委員の人数

## 2. 大田市立病院新改革プラン個別評価事項

項目	評価・改善事項
1 収入確保対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●概ね収入確保はできている。</li> <li>●整形外科が一人でも常勤医がいて、いつでも紹介、相談ができることは、患者、かかりつけ医にとっては負担の軽減に繋がり、外来患者も当然増えてくると思う。難題だが、継続して整形外科医師を募ってほしい。</li> <li>●整形外科医師の確保が課題であるが、達成できれば収益が大きく改善も見込まれる。引き続き努力されたい。</li> <li>●整形外科の非常勤医師にはお世話になっているが、患者から、医師が変わると検査や治療方針が変わり困っているとの声をよく聞く。検討してほしい。</li> <li>●常勤医師確保についての努力には一定の評価をする。しかしながら整形外科医師の確保については大田市民の最大の願いであり更なる確保に向けての努力をしてほしい。</li> <li>●常勤医師(研修医含む)が31名と2名の増員は、医療従事者の確保対策の表われであり、市民にとって、より医療に安心を与えている。</li> <li>●内科医師など増員し、強化している。</li> <li>●整形外科医の確保については、市立病院だけでは解決できない課題である。広く連携して対応してほしい。常勤医師の増加や初期臨床研修医の増加など診療機能の強化により収入の確保に繋がると考える。</li> <li>●整形外科医師の課題解決は、現状では大変困難であると認識している。</li> <li>●常勤医師2名増など診療機能強化により収入の確保につながると考えている。</li> <li>●総合医育成センターの充実をお願いしたい。将来大田市立病院の核となると思う。</li> <li>●昨年に比べて、手術件数、分娩件数、臨床検査件数等において減少している。今後続く様なことになれば経営上も問題となる可能性を秘めていると思われる。経営収支比率は対前年0.1%伸び、一方医業収支比率で0.7%減少等が気にかかる。以上のことは、当該する医師の確保と密接不可分だと思ふ。医師の確保、とりわけ整形外科医師の確保は喫緊の課題である。病院なりに努力されていると思うが限界があると思う。すでに実施されていると思うが、県、市、病院からなるプロジェクト等による一体的努力が必要。</li> <li>●回復期リハビリテーションの充実が図れている。</li> <li>●大田市唯一の基幹病院である大田市立病院への紹介率が33.1%は低すぎる。原因の検討を要する。</li> <li>●病床利用率が低い状況は変わらない。</li> <li>●人間ドック等の健診事業の充実を更にお願ひしたい。</li> <li>●健診事業については人間ドックの増に努力するとの言葉を頂いたので市民の期待に応えるようお願いしたい。</li> <li>●病床管理については適切な病床管理に努力し新病院へ向けての経営改善につなげる経営の努力を希望する。</li> <li>●患者満足度調査における課題を職員全員で共有し市民から信頼できる形で努力してほしい。評価委員会で意見された待ち時間の問題については更なる努力をお願いしたい。</li> <li>●受付、診察、会計まで一連に待機時間が長い。診察には時間がかかる場合があると思われるが、受付、会計は努力次第で解決できる。待たすにはそれなりの理由もあると思うので、受診者に明確にして理解を求めべきである。</li> <li>●DPCの適正な運用がなされている。</li> <li>●レセプトの請求精度について、特に査定減が上昇している。きちっとした目標をもって収入確保として取り組んでほしい。(例、目標値0.3%)</li> <li>●減価償却前では黒字化になっており、経営努力が認められるが、累積赤字が30億と膨らんでおり、今後さらに経営努力が必要である。</li> </ul>
2 経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●7対1看護等人件費の見直しを検討するなど、引き続き経費削減に取り組んでいただきたい。</li> <li>●委託業務において、収入確保部分で重要な部署であり優秀な人材確保と窓口業務のサービス向上を願う。また人員の適正配置に努力してほしい。</li> <li>●薬剤の近隣5病院による共同購入、ベンチマークシステムによる材料費の削減、診療材料費の削減、医療機器の適正な購入、人件費の適正化など、削減・抑制の取り組みが多岐にわたって行われていることを評価する。今後も様々な分野での取り組みを期待する。</li> <li>●医療機器の整備については稼働率等検証して適切な整備をお願いする。購入かリースでの導入については病院経営の観点で見極めてほしい。</li> <li>●新病院建設にあたってコスト削減は当然だが、市民の期待に沿う病院として努力してほしい。そのために職員が一丸となって収入確保に努力することが重要であると考え。</li> <li>●給与費対医業収益比率は目標よりやや高いが、現状を考慮するとやむを得ないと思う。広範囲で対策を講じられており評価する。</li> <li>●対前年比で給与費が3千万円の伸びており、今後会計年度任用職員への手当による増加が現時点で明確である。しかしながら、そのために職員減員でクリアすることは避けなければと考える。</li> <li>●人件費比率、材料費比率、経費比率の低減に引き続き努力してほしい。</li> </ul>

項目	評価・改善事項
3 経営 安定化 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医師及び看護師等医療従事者等の確保・育成に努力されており、今後も島根大学医学部・地域医療支援センターと更なる関係をお願いしたい。</li> <li>●医師確保、看護師等医療従事者の確保が最重要課題。島根大学医学部との連携に努力し、まず整形外科の医師確保に努めてほしい。</li> <li>●島根大学医学部の定期訪問、医学生との交流など継続的に実施されている。</li> <li>●臨床研修病院として研修医の受け入れに努力している。</li> <li>●研修医は、年々増えてきており、今後地域枠の研修医も含め市立病院の力となるよう引き続き連携強化を図っていただきたい。</li> <li>●医療従事者の確保、勤務環境の改善、医学生との交流・実習の受け入れなど、継続性が重視される事業について30年度においても実施されている。</li> <li>●職員すべてが市民から信頼される病院として意識し努力してほしい。そうすることで経営の安定に結ぶことを忘れないでほしい。</li> <li>●オール市立病院として事業管理者の下で市民や患者と対応する事が大事だと思う。</li> <li>●満足アンケートでも29年より30年が下回っている事も不安である。</li> <li>●新病院完成を控え経営の安定化が重要である。つまり償還計画をクリアする努力が重要と認識する。対策として、さらなる職員の努力をお願いする。</li> <li>●経営健全化検討委員会において経営の分析を評価、弱いところは問題を抽出し委員会で議論し課題の解決に努力してほしい。</li> <li>●救急外科患者さんの対応を解決しないと、市民からの外科に対する理解はなかなか難しいと思う。困っている救急患者の対応が患者さんからの信頼を高める。整形外科も含め可能な限り早急な対策が必要と思う。</li> <li>●訪問看護、訪問リハ(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)の評価は非常に高く、患者さんからのクレームなどはない。ただ、訪問リハを受けたい患者はいるのもっと積極的に活動して戴きたい。もっと伸びる分野であり、大田市立病院の看板の一つにすべきである。</li> <li>●整形外科等常勤医の確保が目標。</li> </ul>
4 その他の 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害拠点病院として、より機能強化、又隊員の増強をお願いしたい。</li> <li>●一般会計からの繰入金について更なる適正化に努力してほしい。</li> <li>●出前講座など講演会の開催について関係者の努力に敬意を表する。ただ、時間的な制約もあるが依頼者の希望に沿うために柔軟な対応も検討してほしい。</li> <li>●市立病院のもつ強みをしっかりと市民に伝え経営に結び付けてほしい。新病院開院に向けた工事等進捗状況をしっかりと広報してほしい。また、当日見学した病室のモデルなど参考となった。できれば見学会など通じて市民に呼び掛けることも大切と考える。</li> <li>●病院まつりなど開催し、地域に開かれた病院をアピールしている。</li> <li>●整形外科医師やその他呼吸器外科、心臓血管外科等、高収入が期待できる医師の欠員は、高度化する医療にあってぜひとも確保が必要と思われる。収入確保でもふれたが、県、市、病院の三位一体で取り組んでいただきたい。</li> <li>●地域医療を担う自治体病院としての役割を果たすため、様々な取り組みが行われていることを評価する。</li> <li>●病院で活動されているボランティアグループ「カーネーション」との連携を密にし意見交換を持つことで市立病院の良きアドバイザーとしてお願いする。</li> <li>●市民から信頼される地域の拠点病院として取り組んでいただきたい。特に、待ち時間の短縮、支払い待ち時間を短縮するなど、顧客満足度を上げていただきたい。</li> </ul>

### 3. 大田市立病院運営における平成30年度の取組状況及び結果

1)収入確保対策		
実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
①診療機能の維持、充実	1 常勤医師確保による診療機能強化	<b>【◆取組結果】</b> ○常勤医師数2人増。 ⇒内科2人増(平成29年度末:3人→平成30年度末:5人) ⇒初期臨床研修医1人増(平成29年度末:1人→平成30年度末:2人) ⇒産婦人科医1人減(平成29年度末:3人→平成30年度末:2人) ・平成30年度末常勤医師数:31人(対前年度末比:+2人)  ※医師確保対策の取り組みについては「3)-①医療従事者の確保」に記載。
	2 看護師確保による7対1看護体制の堅持	<b>【◇取組状況】</b> ○看護師修学資金の貸付を継続。 ・平成30年度修学資金貸与者:6人、貸付額:360万円 ○5月31日から6月1日まで県内看護師養成学校等7校を訪問。 ・松江高等看護学院、松江総合医療専門学校、島根県立大学、出雲医療看護専門学校、トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校、浜田医療センター附属看護学校、石見高等看護学院 <b>【◆取組結果】</b> ○常勤看護師の採用(助産師1人、看護師8人) ・平成30年度末常勤助産師数:15人(対前年度末比:△1人) ・平成30年度末常勤看護師数:154人(対前年度末比:△4人)
	3 回復期医療の充実	<b>【◇取組状況】</b> ○他圏域で骨折手術等を受けられた患者の積極的な転院受入。 ○病棟での日常生活動作能力回復の取組を積極的に実施。 <b>【◆取組結果】</b> ○平成30年度転院受入件数:177件(平成29年度:210件) ○平成30年度回復期リハビリテーション病棟平均入院患者数:39.6人 ○実績指数の向上に伴い、回復期リハビリテーション入院料Ⅲを取得(平成30年7月1日)  ※実績指数とは・・・回復期リハビリテーション病棟における1日あたりのFIM(日常生活動作の指標)得点の改善度を、患者の入棟時の状態を踏まえて数値化したもので、入院料3の取得には実績指数30以上が必要。
	4 急性期医療と回復期医療に特化した病棟再編による診療単価の増加	<b>【◇取組状況】</b> ○病床コントロールチーム会、日々のラウンドによる適切な病床管理。 <b>【◆取組結果】</b> ○入院診療単価が全体で189円増加。 (平成30年度38,855円、平成29年度38,666円)
	5 外来化学療法の実施	<b>【◇取組状況】</b> ○入院化学療法から外来化学療法への転換。 ○病棟配置のがん化学療法認定看護師による外来、在宅での横断的な看護ケア実施。 <b>【◆取組結果】</b> ○外来化学療法加算算定件数(平成30年度:283件、対前年度比:+65件)
	6 専門外来の実施	<b>【◆取組結果】</b> ○リウマチ外来(毎週月・木)、腎臓内科(毎週火)、血液・腫瘍内科(毎週水・木※平成28年3月までは週1回) ペースメーカー外来(第2金)、小児神経外来(第1木)、小児心臓外来(毎週火)、乳児健診(毎週火)、小児予防接種(毎週金)、女性泌尿器科外来(第1・3・5木)、緩和ケア(第3木) ○看護外来の開設(平成30年9月) 糖尿病外来(毎週水)、ストーマ外来(毎週木)

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
①診療機能の維持、充実	7 病診連携、病病連携の推進	<b>【◆取組結果】</b> ○他院からの紹介率:33.1%(対前年度比:△0.2%) ○他院からの各種検査の外部依頼を受託。 ・CT、MRI:1,778件(対前年度比:△46件) ・骨密度:195件(対前年度比:+41件) ・遠隔画像診断1,913件(対前年度比:△96件) ○大田医療圏域の4病院にて、患者の紹介や受入、人材育成などで相互協力する「医療機能連携協定」を締結。(平成30年10月)
	8 開放病床の利用促進	<b>【◇取組状況】</b> ○医師会へ開放病床(5床)の利用促進の依頼。 <b>【◆取組結果】</b> ・利用者数:19人(対前年度比:+4人)、 ・利用日数:635日(対前年度比:+355日) ・利用率34.8%(対前年度比:+21.4%)
	9 訪問看護、訪問及び通所リハビリテーションの提供	<b>【◇取組状況】</b> ○訪問看護サミット等の研修参加により、訪問看護の最新情報入手。 ○病棟業務等を行っている看護師を兼任で引き続き配置することにより訪問看護提供に係る体制を整備。 <b>【◆取組結果】</b> ○平成30年度患者数(対前年度増減) ・訪問看護:3,988人(+425人) ・訪問リハ:1,504人(増減なし) ・通所リハ:508人(+25人)
②医療の質の向上、患者サービスの向上	10 まめネットの積極的活用	<b>【◇取組状況】</b> ○参加・閲覧同意の普及活動。(ポスター掲示、幟の設置、普及員派遣、病院まつりでの普及活動など) <b>【◆取組結果】</b> ○参加同意及び閲覧同意累計件数:3,830件(平成30年度末) ○新規参加同意及び閲覧同意件数:519件(対前年度比:△121件) ○当院が連携カルテを閲覧した件数:97件(対前年度比:+20件) ○他院が当院の診療情報を閲覧した件数:943件(対前年度比:+169件)
	11 入院患者の病態に応じた適切で柔軟な病床管理	<b>【◇取組状況】</b> ○病床コントロールチーム会(毎週金曜日)、日々のラウンドによる適切な病床管理。
	12 退院支援の取り組み	<b>【◇取組状況】</b> ○地域医療連携室が中心となり、入院早期から患者・家族と面談し、意向確認しながら院内多職種及び院外関係機関と連携を図り、退院支援。 ○医療ニーズが高い患者が安心・安全に在宅医療に移行し、在宅療養を継続できるように自宅訪問し、退院前後訪問指導を実施。 ○院内外から求められる役割が発揮できるように退院調整看護師育成プログラムを作成。 <b>【◆取組結果】</b> ○退院支援加算Ⅰの算定件数の増加。 ・算定件数:1,285件(対象入院患者の約1/2程度) ○退院後訪問指導料の算定。 ・算定件数:1件
	13 認定看護師の育成・配置による高い看護ケアの提供	<b>【◇取組状況】</b> ○感染対策室に専従で感染管理認定看護師の配置。 (平成28年4月1日感染防止対策加算Ⅰ取得) ○糖尿病看護認定看護師(平成27年6月)、皮膚排泄ケア認定看護師(平成27年4月)を外来に配置。病棟、在宅での看護ケア実施。 ○がん化学療法認定看護師(平成29年7月)を病棟に配置。外来、在宅での看護ケアを横断的に実施。

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
②医療の質の向上、患者サービスの向上	14 健診事業の継続、充実	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドックを毎週火曜日定員5人で実施。</li> <li>○検診検査の継続実施。</li> <li>○乳がん、子宮がん検診の継続実施。</li> </ul> <p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドックの新規オプション項目の追加。 (7項目追加:平成30年4月1日より開始)</li> <li>○人間ドック <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度実施件数:192件(対前年度比:+21件)</li> <li>・平成30年度受託先団体:6団体(対前年度比:増減なし)</li> </ul> </li> <li>○健診検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度実施件数:31件(対前年度比:+2件)</li> </ul> </li> <li>○乳がん、子宮がん検診 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん検診:205件(対前年度比:+61件)</li> <li>・子宮がん検診:907件(対前年度比:+190件)</li> </ul> </li> </ul>
	15 新病院の建設	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○建設工事は順調に進捗しており、平成31年3月には3階立上躯体の工事に掛かっている。なお、工事進捗率は平成31年3月末時点で22.74%。</li> <li>○新病院開院に向けた移転準備を行うため、院内関係部門による専門部会を設置し、移転計画の検討作業に着手。</li> <li>○新病院開院に向け整備する医療機器、備品、什器の購入及びシステム整備等の事前検討を実施。</li> <li>○新病院建設事業の市民周知を図るため、病院ホームページ及び院内広報誌「銀の風」に連載記事を掲出するとともに、市民向けの建設現場見学会を開催。</li> </ul>
	16 全職員の接遇教育を継続的に実施	<p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テルモ株式会社顧問の松村啓史氏を講師に接遇研修を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年10月24日(水) 13:30~15:00</li> <li>・ビデオによる研修:平成30年10月25日(木)、26日(金)計2回</li> </ul> </li> </ul>
	17 患者満足度アンケートの実施及び検討	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○満足度調査を平成27年度から継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間:平成30年9月10日~14日</li> <li>・回収数:外来399人、入院135人</li> </ul> </li> <li>○訪問看護満足度調査を平成25年度から継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間:平成31年1月10日~31日</li> <li>・回収数:64人</li> </ul> </li> </ul> <p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調査報告書(別添資料)を作成し、院内外に周知。</li> </ul>
③診療報酬の確保	18 診療報酬改定への迅速な対応	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経営健全化検討委員会において、施設基準新規取得に向けての検討。</li> </ul> <p>【主な施設基準の取得状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病合併症管理料:平成30年4月1日</li> <li>・医療安全対策地域連携加算1:平成30年4月1日</li> <li>・感染防止対策地域連携加算1:平成30年6月1日</li> <li>・回復期リハビリテーション病棟入院料3:平成30年7月1日</li> </ul>
	19 DPCの適正運用、管理	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○DPC分析システムにより、3か月毎のDPCデータ分析を実施し、各診療科へのフィードバックすることで質の高い効率的な医療の提供。</li> <li>○機能評価係数 平成30年度:0.1067(平成29年度:0.0731)</li> </ul> <p>※DPC制度(診断群分類包括評価制度)とは・・・病気に対して効率よく無駄のない透明性のある医療を行うことを評価するもので、基本的には、入院初期に医療資源を集中的に投入し、早く病気を治すことにある。結果的に入院期間(在院日数)は短くなり、患者さんの経済的な負担や身体的ストレスが軽減される。また、患者さんを効率よく最短距離で治療・回復をした場合に、病院の入院収益が最も大きくなるような仕組みになっている。</p>

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
③診療報酬の確保	20	レセプト請求精度の向上 【◇取組状況】 ○院内での点検・精査の強化についての継続実施。 ○診療報酬検討委員会での査定分析。 ○査定状況を医師、担当部署に情報提供。 ○診療会議において査定分析状況の周知。 【◆取組結果】 ○平成30年度査定率:0.43%(対前年度比:+0.13%)
	21	未収金の縮減 【◇取組状況】 ○顧問弁護士に相談し、納付勧奨文書を送付し、督促の強化。 ・平成30年7月20日送付:10人 ・平成30年8月17日送付:10人 ・平成30年12月25日送付:10人 ○不納欠損処理を実施(73人:213件:9,748千円) ○嘱託職員を1人配置。 【◆取組結果】 ○平成30年度末診療報酬個人未収金残高:27,384千円 (対前年度末:△11,949千円)
	22	電子カルテシステムを活用した適正な収益確保及び請求漏れ防止対策の強化 【◇取組状況】 ○電子カルテ内のポータルサイトに、患者数動向などの情報を掲示することにより情報共有化。 【◆取組結果】 ○新電子カルテの更新により、包括入院料に関して、算定時に包括項目と出来高項目が明確に表示されるため、精度の高い算定が可能。また、機能がより充実したことにより算定の可否についてより正確に把握でき、診療報酬請求の精度が向上。

## 2)経費削減・抑制対策

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
①人件費の適正化	23	新病院開院時期を見据えた病棟再編に伴う人員配置の適正化 【◇取組状況】 ○病棟再編に伴う患者数に対応した適正な職員の配置転換等の実施。
	24	時間外勤務の縮減 【◇取組状況】 ○看護師における変則3交代制勤務を引き続き実施。
②委託費の適正化	25	業務委託内容の点検、見直しによる委託費の適正化 【◇取組状況】 ○医療事務委託業務について、総合評価方式により業者選定し委託。 ・期間:平成30年7月1日から平成35年3月31日まで
③その他費用の適正化	26	薬剤、診療材料の適正化 【◇取組状況】 ○※ベンチマークシステム等による材料費の価格交渉。 ・医薬品:△2,655,817円、診療材料:△2,568,353円 ○診療材料を同等機能以上で安価な製品への切替により診療材料費の削減。 ・削減額:△628,170円 ○後発医薬品への切替により、医薬品費の削減。 ・削減額:△771,958円 ○近隣の病院(県立中央病院ほか)との共同購入による診療材料費の削減。 ・削減額:△522,954円  ※ベンチマークシステムとは・・・システムを導入している各病院から薬剤・診療材料の契約単価や購入実績データを集計し、平均単価、採用品の市場状況等が公表される。
	27	医療機器の適正な購入 【◇取組状況】 ○機器選定委員会による適正機器の選定。(価格、ランニングコスト、性能等の比較検討) ○新病院開院支援総合コンサルティング業務委託業者による市場価格の提示や同等品の提案により適正価格・適正機器の購入。

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果	
③その他 費用の適 正化	28	新病院建設の建築単価 抑制	【◇取組状況】 ○設計変更に伴う事業費の増額を抑えるため、各種仕様の見直しによりコスト 低減の検討を実施。
<b>3)経営安定化対策</b>			
実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果	
①医療従 事者の確 保	29	島根大学医学部、島根 県及び地域医療支援セ ンターとの連携	【◇取組状況】 ○島根大学医学部各教室を定期的に訪問し、医師派遣の要望。 ○島根県が主催する医療審議会等の場で医師不足を含めた地域医療の実態 を説明。 ・島根県地域医療支援会議(平成30年12月20日、平成31年3月4日) ○地域医療支援センターが主催する県内基幹型臨床研修病院連絡会(8病 院)の場で、研修医の確保・研修内容等について情報交換や意見交換。 ・平成30年5月25日、8月3日、平成31年2月15日(島根大学医学部附属 病院)
	30	大田市出身学生や研修 医とのつながりを強化	【◇取組状況】 ○大田市出身医学生、研修医、市長と市立病院との交流会を開催。 ・平成30年7月6日 大田市、市立病院との交流会(学生、研修医10人参 加) ・平成31年2月15日 市立病院との交流会(学生、研修医12人参加) ○病院広報誌「銀の風」を送付。(2回)
	31	大田総合医育成セン ターの支援強化	【◇取組状況】 ○総合医療学講座、育成センター会議の事務局として、会議の開催支援。 ○育成センター医師の研究支援。
	32	医療従事者の勤務環境 改善	【◇取組状況】 ○事務補助員の継続配置。(医師クーク18人、外来クーク12人、病棟看 護師長クーク5人)
②医療従 事者の育 成	33	臨床研修病院としての 体制整備等	【◇取組状況】 ○臨床研修専門部会で平成31年度から受け入れる研修医の指導計画を検 討、作成。 【◆取組結果】 ○平成29年度に続いて初期臨床研修医1名を受入れ。 ○学生、研修医の見学旅費支給制度を県内の学生2人が利用。 ○初期研修医の短期協力型研修の受入。 ・島根大学4人 ・青梅市立総合病院(東京都)4人 ○医学生奨学金の貸付を29年度から継続して実施 ・平成30年度奨学金貸与者:3人 貸付額:360万円
	34	医療現場実習の積極的 な受入	【◆取組結果】 ○医学生実習を積極的に受入れ(5,6年生22人)、実習中に当院医師との交 流会を開催。 ○養成学校からの実習受入。 ・看護師38人、准看護師14人、理学療法士4人、作業療法士3人、言語聴 覚士4人
	35	病院見学の受入	【◆取組結果】 ○小学生の病院見学、中学生の職場体験、高校生の医療体験セミナー・イン ターンシップ等の受入。 ・小学生282人、中学生8人、高校生33人

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
②医療従事者の育成	36	職員の経営参画意識の向上 【◇取組状況】 ○保険診療に関する説明会を、全職員を対象に実施。 ・平成30年12月(3日間、計4回)、平成31年3月(2日間、計4回) ○毎月開催している診療会議において、患者状況及び収益状況等を説明。
	37	病院情報・経営情報の収集、課題抽出、実践 【◇取組状況】 ○電子カルテの更新に伴い、電子カルテシステムトップページに病院情報、経営情報の速報値を掲載し、職員の情報共有。
	38	経営健全化検討委員会の開催及び取り組み 【◆取組結果】 ○16回開催。(10回のワーキンググループ検討会を含む)
	39	人事考課制度の適切な運用による人材育成 【◆取組結果】 ○医師の人事評価制度(平成27年度より実施)の継続実施によりインセンティブを支給。
<b>4)その他の対策</b>		
実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
①公益性、公共性の高い医療の確保	40	災害拠点病院としての機能維持 【◆取組結果】 ○DMAT(災害派遣医療チーム)隊員の増員。(看護師1人) ○西日本豪雨災害に係るDMAT派遣(平成30年7月9日～10日 医師1名・看護師1名・業務調整員2名)
	41	5疾病5事業への積極的関与 【◇取組状況】 ○緩和ケアチームによる患者へのアドバイス ・緩和ケアアドバイザーを通じて、がんの患者に対して治療ケアについてアドバイス。
	42	一般会計からの適正な繰入による公益性、公共性の確保 【◆取組結果】 ○平成30年度繰入金総額:906,558千円
	43	地域包括ケアシステム構築への積極的関与 【◇取組状況】 ○地域包括ケアシステム構築に向け、院内では多職種で連携し、入退院支援。 ○地域の研修会にも積極的に参加し、顔の見える関係づくりに向け、地域の様々な関係機関(医療・介護・行政等)と連携。
②住民の健康づくり	44	糖尿病教室、栄養指導の実施 【◆取組結果】 ○糖尿病教室(奇数月第4水曜日)の開催。(計6回、参加者74人) ○栄養食事指導実施。 ・個人指導:2,999件、集団指導:11件、24名(マタニティスクール)
	45	講演会、出前講座の実施 【◆取組結果】 ○出前講座の実施。(実績詳細は別添資料) ・計19回、参加者641人 ○ふれあい講座の実施。 ・計8回、参加者61人
③広報活動の推進	46	広報活動の推進 【◆取組結果】 ○病院広報誌「銀の風」を4回発行。 ○ホームページ、フェイスブックによる適時な情報発信。 ○ぎんざんテレビを活用した情報発信。

実行プラン		平成30年度 取組状況及び取込結果
④その他	47 各種イベントの開催	<p><b>【◆取組結果】</b></p> <p>○病院まつりの開催。(平成30年10月28日(日)開催、来場者数約800人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災セミナー講習会、ステージイベント(院内バンド演奏等)、医療体験コーナー(リハビリ体験、血圧測定等)、院内体験隊、物販飲食コーナー、パネル展示等</li> </ul> <p>○看護の日イベントの開催。(平成30年5月11日(金)開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内保育所園児の歌の披露や作品展示、栄養・訪問看護の相談コーナー、アロマハンドマッサージ、新人看護職員研修の様子を展示等</li> </ul>
	48 職員の健康管理	<p><b>【◆取組結果】</b></p> <p>○衛生委員会を月1開催し、職員の健康管理に係る所管事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員定期健康診断:年2回(平成30年5月、11月)</li> <li>・ストレスチェック:平成30年9月</li> <li>・各種ワクチン接種:麻疹、風疹、B型肝炎、インフルエンザ、ムンプス</li> <li>・健康管理研修会:年1回開催、テーマ「ストレスとの付き合い方・職場で気をつけることについて」</li> </ul>

## 4. 大田市立病院新改革プランに基づく数値計画、目標の達成状況

### I. 大田市立病院の果たすべき役割

#### ■ 医療機能・医療品質に係る目標

(1) 医療機能・医療品質に係る目標(新改革プランP.15)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
救急患者数(人)	5,844	7,300	6,325	△ 975	
手術件数(人)	616	750	603	△ 147	
分娩件数(件)	262	270	225	△ 45	
臨床検査件数(件)	772,572	632,101	758,745	126,644	
画像診断装置稼働件数(件)	23,641	25,000	23,955	△ 1,045	
薬剤管理指導件数(件)	3,189	3,338	3,618	280	
栄養指導人数(人)	2,697	5,000	3,023	△ 1,977	
リハビリ件数(人)	41,579	48,900	42,305	△ 6,595	
訪問看護患者数(人)	3,563	4,817	3,988	△ 829	

(2) その他の目標(新改革プランP.15)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
研修医・医学生の研修受入件数(人)	36	41	31	△ 10	
看護師・セラピスト等の実習受入人数(人)	80	87	63	△ 24	
人間ドック件数(件)	171	200	192	△ 8	
健康診断件数(件)	231	180	254	74	
健康・医療相談件数(件)	2,045	1,800	2,026	226	

### II. 経営の効率化に向けての課題と方向性

#### ■ 今後の経営効率化に向けての課題と方向性

(1) 収支改善目標(新改革プランP.24)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
経常収支比率(%)	96.1	100.0	96.2	△ 3.8	○経常収益÷経常費用×100
医業収支比率(%)	90.0	95.2	89.3	△ 5.9	○医業収益÷医業費用×100
資金期末残高(百万円)	222	49	53	4	

## ■ 経営効率化に向けた具体的な取り組みと数値目標

### (1) 具体的な取り組みと数値目標

#### 1) 収入確保対策数値目標(新改革プランP.25)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
1日平均入院患者数(人)	183.2	199.0	183.0	△ 16.0	○年延入院患者数÷入院診療日数
1日平均外来患者数(人)	433.9	458.7	440.4	△ 18.3	○年延外来患者数÷外来診療日数
入院単価(円)	38,666	39,133	38,855	△ 278	○年延入院患者数÷入院収益
外来単価(円)	8,653	9,457	8,788	△ 669	○年延外来患者数÷外来収益
病床利用率(%)	56.9	58.7	56.8	△ 1.9	○許可病床利用率
医業収益(百万円)	3,856	4,218	3,890	△ 328	
訪問看護収益(百万円)	33	46	39	△ 7	

#### 2) 経費削減・抑制対策数値目標(新改革プランP.26)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
給与費対医業収益比率(%)	71.5	65.3	71.5	6.2	○給与費÷医業収益×100
材料費対医業収益比率(%)	15.5	16.5	15.7	△ 0.8	○材料費÷医業収益×100
経費対医業収益比率(%)	17.3	16.7	17.8	1.1	○経費÷医業収益×100

#### 3) 経営安定化対策数値目標(新改革プランP.27)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
常勤医師数(人)	29	27	31	4	
年度末職員数(人)	405	414	411	△ 3	

#### 4) その他の対策数値目標(新改革プランP.27)

項目	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
健康講座・予防教室等の開催(回)	31	30	33	3	

## ■ 収支計画

(1) 収支計画(新改革プランP.29)

1) 収支計画(収益的収支)

(単位:百万円)

区分	年度	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
			(目標)①	(実績)②		
収入	入院収益	2,591	2,842	2,593	△ 249	
	外来収益	921	1,057	943	△ 114	
	一般会計負担金	611	616	635	19	
	その他	184	156	227	71	
	計 (A)	4,307	4,671	4,398	△ 273	
支出	給与費	2,781	2,784	2,811	27	
	材料費	605	704	616	△ 88	
	経費	674	711	700	△ 11	
	減価償却費 資産減耗費	252	266	260	△ 6	
	支払利息	39	54	35	△ 19	
	その他	133	151	148	△ 3	
	計 (B)	4,484	4,670	4,570	△ 100	
差引 (A) - (B)	△ 177	1	△ 172	△ 173		

2) 収支計画(資本的収支)

区分	年度	29年度 (実績)	30年度		比較 ②-①	備考
			(目標)①	(実績)②		
収入	企業債	356	3,810	1,778	△ 2,032	
	基金繰入金	44	44	144	100	
	一般会計負担金	221	289	272	△ 17	
	その他	5	1	104	103	
	計 (A)	626	4,144	2,298	△ 1,846	
支出	建物整備費	177	3,768	1,872	△ 1,896	
	器械備品整備費	239	100	65	△ 35	
	企業債償還金等	332	445	444	△ 1	
	長期貸付金	8	4	7	3	
	その他	0		0	0	
	計 (B)	756	4,317	2,388	△ 1,929	
差引 (A) - (B)	△ 130	△ 173	△ 90	83		

## 5. 大田市立病院運営評価委員会委員名簿

(敬称略)

所 属	役 職	氏 名	備 考
大田市議会	民生委員長	石 田 洋 治	
大田市議会	議員	小 川 和 也	
大田市医師会	会長	福 田 一 雄	副委員長
島根県県央保健所	所長	長 崎 み ゆ き	
大田市社会福祉協議会	会長	西 村 俊 二	委員長
大田市自治会連合会	会長	森 山 護	
大田市立病院を守り育てる会	事務局長	渋 谷 次 夫	
大田市	総務部長	水 田 雄 二	
大田市	健康福祉部長	林 泰 州	

### (参考) 大田市立病院概要

病院名	大田市立病院
経営状態	地方公営企業法全部適用
所在地	島根県大田市大田町吉永1428番地3
病床数	339床(一般280床、療養55床、感染4床)
診療科目	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科(計20科目)